

皆様、おはようございます。そして、クリスマスおめでとうございます！
ついにろうそくが4本灯りました。主イエス様のお生まれを心から感謝いたします。一緒に主に感謝をおささげする礼拝を過ごしてまいりましょう。
時は紀元前1200年頃に戻ります。今から3000年以上前のことです。出エジプトのその後、約束の地に入った後、士師記2章の中に書き記されていますことをご紹介します。

2:7 ヨシュアの在世中はもとより、ヨシュアの死後も生き永らえて、主がイスラエルに行われた大いなる御業をことごとく見た長老たちの存命中、民は主に仕えた。

2:8 主の僕、ヌンの子ヨシュアは百十歳の生涯を閉じ、

2:9 エフライムの山地にある彼の嗣業の土地ティムナト・ヘレスに葬られた。それはガアシユ山の北にある。

2:10 その世代が皆絶えて先祖のもとに集められると、その後に、主を知らず、主がイスラエルに行われた御業も知らない別の世代が興った。

2:11 イスラエルの人々は主の目に悪とされることを行い、バアルに仕えるものとなった。

2:12 彼らは自分たちをエジプトの地から導き出した先祖の神、主を捨て、他の神々、周囲の国の神々に従い、これにひれ伏して、主を怒らせた。

そして士師が送られます。暗黒の時代です。人々は神を認めずに、そして神様を求めもせず、そして神様は裁きつかさを送られました。

この暗黒の時代、ルツ記の出来事が起こりました

1:1 士師が世を治めていたころ、飢饉が国を襲ったので、ある人が妻と二人の息子を連れて、ユダのベツレヘムからモアブの野に移り住んだ。

1:2 その人は名をエリメレク、妻はナオミ、二人の息子はマフロンとキルヨンといい、ユダのベツレヘム出身のエフラタ族の者であった。彼らはモアブの野に着き、そこに住んだ。

ベツレヘムはヘブライ語では「パンの家」と呼ばれる豊かな所でしたけれども、この暗黒の時、飢饉が訪れ、エリメレクとナオミと二人の息子はモアブの地に逃れ、そこで子供たちはそれぞれモアブの女性をめとり、そしていつしかみんな死んで、残されたのはナオミとルツだけでした。

すべてを失ってしまったかのように悲しむナオミでした。私をナオミ(快い)とは呼ばずにマラ(苦い)という名前に変えてで呼んでくださいと言うほどに、彼女は打ちひしがれていました。

その、何も持たないように思っていた彼女と共にいたのがなくなったわが子の嫁のルツでした。このルツを神様は祝してボアズと出合わせ、そしてそこから子孫としてダビデが生まれてくることとなります。

そして喜び溢れてベツレヘムで暮らすナオミとルツとボアズ、そしてベツレヘムはダビデの町と呼ばれるようになりました。

マリアがその讃歌の中に語る中にも、暮らしがつかく苦しいものであったことがわかりました。

身分の低い、この主のはしためにも／目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人も／わたしを幸いな者と言うでしょう、

1:49 力ある方が、／わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、

1:50 その憐れみは代々に限りなく、／主を畏れる者に及びます。

1:51 主はその腕で力を振るい、／思い上がる者を打ち散らし、

1:52 権力ある者をその座から引き降ろし、／身分の低い者を高く上げ、

1:53 飢えた人を良い物で満たし、／富める者を空腹のまま追い返されます。

1:54 その僕イスラエルを受け入れて、／憐れみをお忘れになりません、

見捨てられ、もう助けがないものばかりと思っていた。神様を畏れることのない人たちがおごった心で世の中を回しているが、本当に力あるお方、神様は、私のような身分の低い、このはしためにも目を留めてくださって、良き御業を成し遂げて下さることを確信しましたと、彼女は喜びの声を上げました。

誰にも目を止められることのないこんな身分の低いもの卑しいものにあなたは目を留めてくださった。それほどに本当に熾烈な時代は格差の中にありました。思い上がるもの権力あるもの身分の高いもの止めるものが好き放題をする、そして貧しい人身分の低い人は虐げられていたこの暗黒の時代。神様はそのマリアに目を留めていて下さいました。そして「恐れるな」と語って下さいました。ザカリアにも「恐れるな」と語られ、ヨセフにも「恐れず心配せず」妻をめとりなさいと語られました。

神様は今日も恐れるな、思い煩うなと語られます。

イエス様もおっしゃいました。

マタイ6章6:25 「だから、言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。

6:26 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。

6:27 あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

6:30 今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。

6:32 それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。

6:33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。

6:34 だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」

聖書のメッセージは、「恐れるな、思い悩むな、思い煩うな」と言うメッセージです。

長年祈りが叶えられなかったザカリアとエリザベトでしたが、ずっと子供が与えられなかったたと言うこと、それは親類のマリアを選ばれた神様の御旨でした。

小さな村の少女に目を留め、信仰のうちに、困難でつらい状況の中にあっても信じて祈り続けた彼女。どうして神様がおられるこの国で、このような神の哀れみが成し遂げられない有様なんだろうと祈り悲しみ叫ぶ祈りに神様はお答えになられ、マリアを選んで下さいました。

そしてそのマリアが生まれる前から親類のザカリアとエリサベトのもとに神様の御旨は働いていました。すべては神様のご計画の中にあります。驚くべき神様のご計画です。私たちが創造もすることができない大きなスケールで神様の救いの御業、喜びの御業は進められています。最善の時に神様は最善のこをなされる神様です。神様には時があり、神様がなさることには意味があります。

私たちは信頼して神様を見上げ、大きな喜びを与えられて救いが与えられていることを目を大きくして見上げたいのです。主を大きく拡大してあがめさせていただきたいと思います。

あのベツレヘムの町でまた神様の働きが起こります。

2:1 そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。

2:2 これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。

2:3 人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。

2:4 ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

2:5 身ごもっていた、いいなずけの MARIA と一緒に登録するためである。

2:6 ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、MARIA は月が満ちて、

2:7 初めての子を産み、布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

多くの人とその登録をするためにその町に出向いていました。需要過多となり、きっと宿代が高騰していたに違いありません。それでもいっぱいになったその町に行きはしたものの、大金を積むこともできず、とうとう馬小屋で寝るしかなかったのです。それは悲惨な出来事であったでしょう。人間扱いされない、ショックな現実でした。妊婦なのに。人の冷たさに心を刺し貫かれるような出来事だったでしょう。しかしそこに神様のお働きが輝いています。

2:8 その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。

2:9 すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。

2:10 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。

2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

羊飼いたちは野宿をしながら夜通し 365 日 24 時間羊の群れの番をしていました。律法が定める通り、手を洗い清めて食事をしなければならないと言う問答はイエス様と律法学者との間になされましたけれども、羊飼いたちはそのようなことをすることが出来ず、また主の集會に出て聖書を聞くことも、今で言う礼拝に出ることも出来ませんでしたから、見下されていた存在でした。しかし

彼らは最初のクリスマス(キリストを礼拝する)のその礼拝者とさせていただいたのです。そしてイエス様はその後羊飼いと呼ばれる方となられるのです。

「恐れるな私は民全体に与えられる大きな喜びを告げる」そのようなへ社会的な墮落と腐敗の中にあつて、虐げられている人々に「恐れるな」と言う言葉がかけられました。恐れる事は無い。見よ、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。そこに与えられたのは大きな喜びでした。蔑まれ馬鹿にされ低く見られ、そして神様を神様としない、神様を忘れてしまった、その混沌とした腐敗した時代の中にあつて、しかしそれでも「恐れるな」、私は民全体に与えられる大きな喜びを告げる。「見よその大きな喜びを」と、神様は天使を遣わしそのように語られます。

世の中には神様を恐れない、そのような考え方によって非常に住みづらい所となっています。飢餓が増し加わっています。強い国が食料を買い占めて穀物の物価が上がり、飢餓が増えていると言う報告もあります。貧しい人たちがどんどんどんどん行きづらい世の中になっているのかもしれない。

コロナのワクチンを打つことができる国もあれば打つことのできない国もあります。貧富の差の中にうめき苦しむ人たちがいます。

しかし、「2:10 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。

2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

あの貧しさの中、宿屋に泊まる事が出来ずに、馬小屋に泊まるしかなかったその悲しみと辛さ。赤ちゃんがいるのになぜと、人の冷たさを目の当たりにして悲しんでいたヨセフとマリアでした。しかしその馬小屋の飼葉おけの中に赤子を寝かせていると言うその状況は神様の思し召しであったしるしとして与えられている神様の導きであったと言うことがここで分かるのです。

私たちにとっても、この状況、この耐えられない状況さえなければ良いのと言う事柄が私たちに与えられて、不可解な思いをして悲しむとき、それはあるいは神様の誰かへのしるしかもしれないのです。

その低きしるしが、つらさが、同じく苦しみ、慰めを求める方々を主イエス様へと導くための道標であるかもしれないのです。

そう考える時、私たちは慰めをいただきます。そう考えて、すべては主の御手の中に駆であると信頼する時、心の底から平安が沸き上がります。そしてこのしるし、飼葉おけのしるしは、イエス様の低くへりくだられたしるしでもありました。仕える者となり、弟子の足を洗い、そして十字架につき、死にて黄

泉に降り、人の罪の身代わりとなって死ぬ、そのことのしるしと予兆でもありました。

2:13 すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

2:14 「いと高きところには栄光、神にあれ、／地には平和、御心に適う人にあれ。」

2:15 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。

2:16 そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。

2:17 その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。

2:18 聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。

2:19 しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。

2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

神様の御手の中でなされることは何とくすしきこと、素晴らしいことでしょう。神様は全てのことを司っておられます。そしてすべてのことを意味あることとして、大きな喜びの救いの出来事として私たちに与えていて下さるので、神様がお語りになったこと、それはその通り現されます。実現します。そしてそれは大きな喜びの実現です。良き知らせ、救いの出来事は主が知らせてくださった通りに実現します。

「神にできないことは何一つない。」「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いですでしょう。」

2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

主が語られた御言葉は必ず実現する。主は慈しみ深い。だから私たちは心配しない。大きな喜びを確かに見る。これがクリスマスの確かなメッセージです。イエス様は確かにお生まれになりました。インマヌエル。「神は私たちと共にまします」

その神様の御救いは今日も続いています大きな喜びが私たちの前に輝いています。私たちは恐れることなくへ神様の御業が遅すぎると嘆くことも焦ることもなく、時にいたって最善の、意味あることをしてくださり、私たちの苦しみさえも悲惨さえも神様は手の中に収めておられ私たちに耐える力も脱出の道も開

いてくださってご自分の素晴らしいご計画のために私たちを用いてくださるっということを信じてまた今週も進ませていただきたいと願います。

主が私たちの犠牲となるためにこのような姿として、しるしとして、そのように生まれてくださったことに心から感謝したいと思います。主は苦しみ、蔑まれる、貧しい、悩みの中にある弱い私たちと共にいて下さいます。

私たちに大きな喜びを与えるためお生まれくださったイエス様に賛美をおささげいたします。クリスマスおめでとうございます。イエス様ご降誕ありがとうございます。